けんかを通して
幼児の社会性の指導を考える

根岸幼稚園

番号 / 原因	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
仲間にはいりたいのにはいれない					○			○					○		○	○							○					○				
仲間入りの技術がへたなため															○	○										○	○					
ことばの思い違い																	○															
状況の誤認	○	○									○							○										○	○		○	
自己主張		○															○		○	○					○				○			
グループの対抗			○																			○										
けなされたため				○				○																○					○			
約束をやぶって批判されたため																									○							○
個人の衝動的行動	○																		○			○									
他人の権限（所有）をおかす									○				○										○				○					
ことばあそび的けんか							○					○												○		○						
独占欲						○															○										
他人の気持を無視したため										○				○																		

第1表　けんかの原因の要素別分類

私どもは幼児の日常生活の中でたびたびおきるけんかをとりあげて、実際におきたけんかをそのまま記録し、けんかを通して社会性を育てることを考えてきました。実際にけんかの事例を集めて整理してみますと、けんかにはいろいろの原因が重なっていることがわかりました。第1表に、私どもの集めた32例のけんかの原因を整理してみました。

いちばん多いのが「仲間にはいりたいのにはいれない」「状況の誤認」で、これについで、「自己主張」が多くなっています。その次が「仲間入りの技術がへたなため」「けなされたため」「他人の権限（所有）をおかす」「ことばあそび的けんか」「個人の衝動的行動」が多くみられます。わずかずつみられるものとして、「グループの対抗」「約束をやぶって批判されたため」「独占欲」「他人の気持を無視したため」「ことばの思い違い」があります。

次に、これをどのように指導するかという面から整理してみますと、第2表のようになります。

いちばん多いのは「個人をとくに指導する」というので、全事例の半分近くにみられます。次に多いのは「状況を認識させる」「集団の話し合いを通して指導する」「この場面ではとくに指導の必要なし」というものです。その次には「遊び方の技術を知る」「順序づけ」「別の場面で指導する」が多く、「所属感をあたえる」「共通の目標の発見」が次にみられます。それぞれの項目の説明については、本文の中でみていただきたいと思います。

指導＼番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
個人をとくに指導する	○		○	○		○							○		○	○	○		○		○	○				○	○					
集団の話し合いを通して指導する		○							○							○	○					○			○						○	
あそび方の技術を知る								○							○								○				○					
状況を認識させる	○	○								○	○			○															○	○	○	
仲間いりのためのことばの指導をする					○									○	○								○					○				
他人の気持や意志を知るように										○				○																		
所属感をあたえる																							○									
順序づけ																		○		○								○				
共通の目標の発見																					○											
この場面ではとくに指導の必要なし							○					○					○							○		○			○		○
別の場面で指導する			○																				○				○				

第2表　　指導の分類

1. 年少児のけんかとその指導

臼田　澄

年少児のクラスでは、一学期のはじめの頃は、それぞれが自己中心的です。勝手に遊具を使う子ども、独占欲の強い子ども、衝動的で乱暴な子どもなどさまざまで、「あそんでくれないの」とか「ぶったの」というううったえがよくありました。

このころにみられたけんかの例を三つあげてみます。いずれも年少児によくみられるけんかです。

その第一は、衝動的な行動に対する個人の指導。第二は、独占欲が強いことに対する個人指導と共通の目標の発見について。第三は、状況の誤認に対する話し合いと順序づけについてです。

右下表の例では、Sが一方的に行動をしたことが問題ですが、S自身は悪いことをしたという意識はなく、遊びのつもりのようでした。この時期はちょうど入園以来それぞれが、生活になれて思うままにあそび出す時期なので、約束をきめても、このように自分勝手に行動することがあります。Sに対しては、危険なことはしないように、友だちとあそびたいときは、「いっしょにやろう」とか「入れて」といって遊ぶように指導してきました。個人差に応じて適切な指導が必要であると感じました

よっぱらい運転――他人の作ったものを勝手にこわしあそびの邪魔をしたためにおきたけんか

5月10日　（金）　晴　二年保育年少　保育室	
状態記録	O.K.M. が，中積木で家をつくっている。Sは，トラックで部屋をかけまわっている。先生が庭にいると，Oが呼ぶので，いってみた。 O「先生，あのこが，ぼくたちがつくった積木をこわしちゃったの」 先生「だれがやったの」といい室内を見ると，KとMがおこってSに何かいっている。 先生「どうしたの」 K「あのこがね，せっかく家つくったのにトラックでガーンてやったの」 先生「Sちゃん，どうしてこわしたの。みんながぼくになにかしたの」 O「何もしないのに」 M「何もしないよ」 K「ぼくだってしないよ」 S「あのね，これはダンプカーだからよっぱらい運転なんだよ」 先生「よっぱらい運転はこまりますね」 先生「ぼくね，せっかくみんながつくったものをこわしたらだれだっておこるでしょ。ぼくも，いじわるされたらいやでしょ。それにだれかに積木がぶつかって，けがしたらあぶないでしょ。だからね，ふざけてあぶないことをしたりみんなの邪魔をしないようにしましょうね」 S「うん」O.K.M. もだまって聞いていた。 先生「ぼくたちもなかよくあそびましょうね。あぶないことしないようにね。Sちゃんみんなにごめんなさいしたら」 S「ごめんね」すなおにいった。
原因	3人で家をつくっていたところへSがトラックで急にぶつけてこわしたので，みんなが怒った。
まとめ	あそびがだいぶ活発になってきたが，日常遊具は，かわるがわる使ってなかよくするように約束しているが，まだ，自己的で，Sはとくに，自分勝手に行動し衝動的なことがあるので指導しているが，まだ協調心がたりない。
備考	邪魔をするというより，Sはこわすことに興味を感じているのではないか。 どの子どももこのようなことをするということは，いえない。S個人の問題であるようにおもわれる。

ボールころがし——遊具の独占欲によるけんか

5月15日	（水）	雨	二年保育年少	保育室

状態記録

Oがボールでひとりあそびをしていた。
O「先生，Oちゃんのボールとるんだよ」
先生「Oちゃんさっきから使っているんだから貸してあげたら」
O「いやだあ」
先生「Hちゃん，Oちゃんにかしてっていったの」
H「かしてっていってもかしてくれない」
O「だってOちゃんひとりで使うんだもの」ボールを両手でしっかりかかえている。
先生「Oちゃんそれぼくのじゃないでしょ，みんなのよ」
O「いやだあ」逃げまわるので先生追いかける。
先生「Oちゃん，Oちゃん」
O「いやだあ」
先生「Oちゃん，ちょっと，ちょっと，あのねぼくが一回使ったらHちゃんにかして，Hちゃんが一回使ったらぼくが借りてなかよくするのよ」
Oはしぶしぶボールをわたす。
O「Oちゃんつまんない」HがOにボールをわたす。
先生「じゃふたりでボールをころがしっこしたら」
O「うん」Oはやっと承知しふたりであそびはじめた。10分くらいつづけていた。

原因

OがひとりでボールをついていたらHがかしてといったが，Oは独占欲がつよく，わがままなので，Hが自分のボールを取るのだと主張したのでおきた。

まとめ

遊具はみんなのものであることを認識させ，なかよくつかうことを指導したが，Oはわがままで強情なので，なかなか遊具をかすことができない。しかしともだちとあそぶようにしむけたら，その方がもっとおもしろいことを知ったようす。まだ自己中心的であるが，共同であそぶことの楽しさを指導したい。

備考

Oは，わがままで独占欲が強い。Hは生れがいちばんおそいが，自分勝手に行動することはない。
ふたりで共通の目標を発見させている点，おもしろい指導である。前頁表例に適用できないであろうか。今後もこの共通の目標ということで解決できるのではないか。

右の表例の場合、ただいけないとか貸してあげなさいと改めさせるのでなく、共通の目標を発見させて、共同で遊ぶ技術を知らせることによって友だちを認識し、自分も仲間の一人であることが意識できるのではないかとおもわれました。

次頁表例の場合は、HとSの二人がまりつきをしていましたが、KがHを無視してSのついているまりを借りようとしたので、Hがまりの権利は自分であるとおもい、ことわったら、Kにぶたれたので泣いてしまいました。Kがその場の状況をよく認識しなかったことが原因と考えられます。この場合には、お互いに話し合っているうちにKがその場をよく判断してから入れてもらえばよかったことと、Sがいっているように順番を決めてあそべばよいということがわかり、お互いに納得できたようでした。

六月の末に、六名の男児が砂場で山をつくっていました。いつも消極的でぼんやりしているAが立って見ているので、入るようにしむけましたが、なかなかいえないようすです。すると山を作ったOが「入れてっていえばはいってもいいよ」といい、他の皆も「そうだよ　はいったっていいよ」といったので私はAに対し「早く入れてもらったら」といいました。すると、やっと「入れて……」ということができ、次第に友だちとあそべるようになりました。七月には積木あそびをしていたOが、「君入るの？」とさそいかけ、Aは「うん」といって入りました。Oが「みんな入れてやるよ　仲良くしよう」といって消極的なAも

すすんで仲間入りができるようになり、協調心が芽生えてきました。

二学期になってからもときどきけんかがおこりましたが、仲間入りも上手になり、皆でお互いに話し合って解決できるようになってきました。

十月始めのころ男児が四、五人で積木で何かつくっていました。

Tが私のところへきて「入れてくれないの」といったら、私のわきで製作をしていたKが「よし僕がいってやる」といって、皆に「どうして入れてやらないの」と聞いていました。その中のNが、「じゃあ、せまいからみんなでもっと大きくしよう」といって、Tも入ってあそぶことができました。

よくきけばよかったわね——仲間いりの話し合いが下手でおきたけんか

6月3日　（月）　雨　二年保育年少　廊下

状態記録

保育室前の廊下で女児がまりつきをしていたが，けんかになったらしい。誰かが泣いて，Sが先生のところへ知らせに来た。

S　廊下から，部屋にはいって来た。「先生あそこでけんかになって泣いてるの」

先生　「だれが？」廊下へいって見るとHが泣いている。

先生　「どうしたの？」Kがそばにいるのできいてみた。

K　「あのね，あたしのことじわるしてかしてくれないんだもの」

先生　「Kちゃんがちゃんを泣かしちゃったの？」

H　泣きながらこっくり。

S　「ちがうの，この子がね（Kのこと）あたしにね，あたしがついてたら，かしてっていったら，この子が（Hのこと）だめっていったもんで，そんだもんで（Kのこと）この子が（Hのこと）この子のことぶったの」Sがまりをついていたら，Kがかしてといった。それをHがだめだといったのでKがおこってHをぶったらしい。

先生　「どうしてHちゃんが，だめっていったの，だれが最初にまりつきしていたの」

S　「Hちゃん」

先生　「あ，Hちゃんがつかっていたまりなの，それでどうしたの」

S　「あのね，Hちゃんがまりついてるから，あたしがかしてっていって，Hちゃんがだめになったから，あたしの番でついたの。そんでだめになったから，この子がかしてってあたしのまりをつこうとしたら，Hちゃんがあたしよっていったから，Kちゃんがあたしよっていうから，あたしがじゃんけんすればっていったの，そしたらKちゃんがぶったから泣いたの」

先生　「そうじゃあ，Sちゃんはちゃんからまりを借りたのね，それでまた，KちゃんがかしてっていったからHちゃんがいやだっていったの？」

H　うなずく。

先生　「じゃあふたりでやっていたのね，Kちゃんはちゃんのだとおもったんでしょ，よくきけばよかったわね」

S　「そう，あたしの次は，Kちゃん，それから，Hちゃん，そんであたしってやればいいのよ」

先生　「そうね，Hちゃんも，じゃいれてあげるから順番よっていえばよかったし，Sちゃんも，Kちゃんにいっしょにしましょっていって，Kちゃんもいれてもらうんだから，よくきいてみればよかったわね」

先生　「こんどからみんないれてあげてじゃんけんしたり順番になかよくつかいましょうね」

三人ともなっとくしたようすで帰る準備で部屋にはいっていった。

原因

HとSがまりつきをしていたがKが，Sひとりで使っていたものと思ってSにかしてといったら，Hが，自分をのけものにされたと思い，自分の番だと主張したので，Kが，Hをぶった。

まとめ

話し合いがうまくできず仲間入りが下手なためにけんかになったと思われるのでいれてもらう場合は，はっきりいれてというように，またみんなで話合ってじゃんけんなどで順番をきめて，仲良くあそべるよう今後指導したい。

備考

年少組なので三人で順番に使う技術がわからないでおきたけんかである。
仲間入りの技術が問題となる。
最後の先生のことばは必要ない。先生は，状況を知り，経過をあきらかにするだけでよいのではないか。

このようにけんかのような状態になってもお互いに相手を尊重し認め合うことができるようになってきました。けんかがおきた場合にはその原因をまずあきらかにし、一人ひとりの立場やいい分を聞いてやり、教師自身がその状態をよく理解して、どうしたらよいかお互いに反省させ、納得できるように導くことが必要です。

年少組の場合には、自己主張が強く、自分本位に行動するので、仲間に入る技術がわからなかったり、友だちの立場や状態の判断ができないことがあります。仲間入りのあいさつをはっきりいうことや、状況判断が正しくできるように、協力して一つの共通のあそびを行なうことができるように、けんかの場をとおして指導していくことが必要です。

2. 仲間いりの話し合いから

——1年保育の場合——

北島光子

1年保育も4月当初は、どうして友だちを誘ったらよいのかわからず、友だちを誘うのにも、体をぶつけてみたり、押してみたりの状態で、自分は誘ったつもりでも、相手はぶたれたと思ってしまうという、争いが多くみられました。

そのつど個別的に指導してきましたが、あるとき、次頁表のようなけんかが起りました。

このような、けんかがおこり、幼児たちが驚いてみておりましたので、はじめて全員に、仲間にはいりたい時、友だちと一しょに遊びたい時は必らず、相手にわかるように、大きな声で「いれて」ということ。友だちが「いれて」と来たら必らずいれてあげることが、仲間入りのいちばんの初歩であることを話し合いました。

その結果、仲間いりの挨拶がへたでおきるけんかの数は少なくなりました。ところが、E君が仲間にはいると、そのグループはけんかがおきます。E君を見ていますと、このようなことがありました。

6月20日の自由あそびの時、砂場で男子5人が大きな山を作っている時でした。

教師　「高い大きな山ができましたね」
子どもたち　「うん」
E男　「先生いれてくれないの」
教師　「あらどうして、Eさんは、はっきり　いれてと、いわないのでしょう」
O男　「先生ちがうよ、だめだよ。E君がはいると、E君はいつも自分勝手にするから」

このように、仲間にいれてもらっても、相手の遊びを考えず、自分ひとりで好きなことをはじめ、遊びを継続させていくことができないことがわかりました。

私はそこで、幼児たちが仲間いりについて、また友だちと仲よく

キューブ積木――仲間いりの技術がへたでおきたけんか

5月20日　（月）　雨　一年保育　保育室

状態記録

TとMふたりでキューブ積木を高くかさねて遊んでいたが急にTとEとが，とっくみあいのけんかをはじめTが泣きだした。

先生　「どうしたの」
E、　「先にぶったんだよ」Tを指しながら
M　「ちがうよ，おまえが先にぶったんじゃないかよ」
先生　「そうなの」
M　「積木を高くしていたの，あの子（Eをさして）おとしたの」
E　「手伝ってあげようとしたんだ」
T　「どうして，ここに置いたんだよ」（たいへんなおこりようである）

近くの大積木の上にキューブ積木の半分をのせたらしい。

T.M.　「とったんだよ」
先生　「Eさんがキューブ積木を半分取って，大きい積木の上に置いて落したの，それでTさんの顔にぶつかったの，それで，けんかしたのね」
T.M.E.　「うん」

T.M.はへんじもはっきりせず，積木で遊びだす。教師は三人でどのような結果をだすかと，ようすをみていたら，

E　「先生ふたりとも悪い？」
先生　「どうでしょうね」三人に呼びかけてみたが，T.M.はへんじなく夢中で積木で遊んでいる。Eは仲間にはいりたいらしく，そばで，
E　「階段作っているの」といっていたが，T.M.はしらん顔，Eはバズルの方に遊びにいく。
先生　「どっちが悪いと思いますか」T.M.に向かって，
M　「Eが悪い」
先生　「どうして悪いの」
M　「積木を持っていったから」
T　「知らない」といいながら大積木で船作りをしている。

原因

T.M.が積木で遊んでいたところ，Eがことわりなしに積木を取り，投げたことによりおきたけんか。

まとめ

子どもたちは，けんかしたことにあまりこだわっていない。積木遊びに夢中になっていたので，遊びを中断してもと思い，現場での指導はよした。今週から単元「わたしのなかま」であるので，ひと遊びしたあと全員に，このけんかの説明をしてなかまに入れてもらう時の約束（いれてとはっきりいう，おともだちが来たら，なかまにいれて，協力して遊ぶことなど）遊具の使い方を指導したが，現場でも指導してEをなかまにいれてやったほうが，よかったのではないかと反省している。

備考

討　議

（1）　子どもが仲間にいれてきた時，嫌いなともだちがきたら，どのようにするだろうか。子どものことわりかた……人数が多いから，昨日いじわるをしたから，どうしてもなど。

（2）　なかまに入れてもらえなかった子どもは，どうしたらよいか。たいへん，むずかしい問題である。現在の社会をみた時，おとなたちでも嫌いな人とは，あえて交際しようとはしていない。幼児においても「みんなと仲よくあそぶ」ということを，あまり強制すべきではないと思う。

なかまに入れてもらえなかった子どもは，そのことにより考えて，なかまいりの技術を理解してくるのではないか……

（3）　Eに対して個人指導が必要である。

遊ぶということを，どの程度理解しているかを知りたいと思い，次の項目について話し合いを試みました。

1.　仲間にはいりたい時はなんといったらよいかについては，
　1.　いれて，　2.　いれてちょうだい，　3.　仲よく遊ぼう，
4.　みんなとあそぶものですよ，　などがでました。

2.　仲間いりをことわる時はなんというか，を聞いてみますと，
　1.　あとで遊ぼう，　2.　いやだ，　3.　人数が少なくなったら呼んであげる，　の3つでした。

3.　仲間いりをことわられた時はどうするかを聞いてみますと，
1.　ほかの者と遊ぶからいいよ，

2. 一人で遊ぶ、そしてお友たちかきたら遊ぶといっていました。

次に友だちと仲よく遊ぶについては、

1. かわりばんこにする、
2. みんな仲間にいれてあげる、　の2つでした　そこで、

みんな仲間にいれてあげたいけれど、時々乱暴する友たちや、自分勝手なことばかりする友たちがきた時は、どうしたらよいかを話し合い、約束つくりにもっていきました

幼児たちは、そのような友たちがきた時は、

○ 仲間にいれる前に、悪いことはしないでねといって、「うん」といったら、約束したらいれてあげる　そして、ゆび切りげんまんをする　それても悪いことをしたら、

○ いれてあげない、てもあやまったらいれてあける

私はE君が仲間にはいった時を考えて、それでも自分勝手な遊びがしたいといいたしたら、どうするかを話し合いました。その結果、幼児たちはひとつずつ遊びをはじめる、そしていちばんはじめにする遊びは、じゃんけんで決めるという約束ができました。

その結果、E君も自分勝手な行動をすることが少なくなり、集団生活への意識を見いたすことができるようになりました。

このような過程をとっているうちに、夏休みにはいり、2学期を迎え、1学期に約束したいこと、つまり集団生活への意識と行動性について懸念しておりましたが、九月中頃、女児4人が、ままごと遊びをしながら盛んにいいあいをしていました。

けんかにならなければよいが、と見ておりますと、しゃんけんをはじめ、お母さんになる順番を決めていました

そのうち、一人が突然顔を真っ赤にして、「先生2番目のお母さんって本当にあるの」と真剣に聞きにきましたので、「そう2番のお母さん、いいわね、今度お母さんになれるのよ」と話してやりましたら安心したようでした

このような、ほほえましい事もありました　しかし、あそびの種類によっては、多くの友たちを仲間にいれると、その遊びがおもしろく発展しないという状況がおきてきました

このような時に幼児たちは、どのようなことわり方をするか、遊びの中より調べてみますと、

1　あっちへいけよ、2.　いれない、3.　だめなどでした

そこで幼児たちに、ことわられる時に、

「いれない」といわれるのと、「今大勢たから」「満員たから少なくなったらいれてあげる」といわれたのと、どっちがよいか、話し合いの中でなげかけてみましたら、「少なくなったら、いれてあける」といわれた方がよいと、言っておりました

そこで、どうしても仲間にはいりたいという友たちの気持を尊重することを、幼児なりに理解させるための話し合いを持ってみました。あまり強くこの事を求めますと、本当に相手の気持を尊重して、いっているのでなく、仲間にいれたくないいいわけや、理くつが多くなりました

これらの事を通して見ますと、幼児たちは、仲間に入れてもらいたい時、また仲よく遊ぶのには、どうしたらよいかという事は、ことばで概念的に知っていますが、さて自分がそのような場面にそうぐうした時は、必らずしもその通りに行動できないことが多く見られました　これは、集団生活の場が少なく有機的な結びつきが薄いためであると思います　極端ないいかたをすれば、けんかがおきた時は、通り一ぺんなやめさせ方でなく、その過程における話し合いと、行動によって生じる対人関係を解決していくように努めれば、集団生活の心構えも深まり、またこのような経験の積み重ねによって、相手の気持を考えることや、認識したりする態度が育えてくるように思われます。

つまり社会生活を発展させるためには、幼児の個々の行動を、どう結びつけ、どう条件づけ、仲間いりをさせるかが最も大切であると思われます

3.　けんかを通して集団での約束づくり

――2年保育年長の場合――

高橋華子

けんかにはさまざまな原因、経過、また結果がありますが、日常保育の中で必ずといっておきるのがけんかです

私は最初この問題をとりあげるまで、あまり、けんかには関心を持っていなかったので、仲良くしましょうということを主体にいつも最後にはどうしたら仲良くできるでしょうね……などと全く通り一辺の保育でした。が、さて研究ということになりましたら、やはり日常見落とされていること、また指導の難なことが目立ちはじめ、これはたいへんとあわてた次第です。2年保育の年長組を受け持ち、去年からのけんかを通してみた幼児の成長を、保育の中での集団の話し合いからとりあげて考えてみたいと思います。

①年少組のときに見受けられたけんかの傾向として私の受け持つゆり組の場合年少組では41頁の表のようなけんかがよく起こりました　これを原因別に考えますと、他人の気持を無視して自己主張する子どもが案外多かったのです。とにかく相手をみとめる先に、自分で行動を起こして、それを認めさせるという面が多かったのですが、指導の面で他人を尊重する態度を養い、状況の認識を機会あるごとにさせてみました。例えばけんかが起きたときもう一度その状況を話させ、その中で、私が原因となる面を少しずつ話の中に加えて解明させていきました　すると、興奮しているときはなんでもお互いに相手が悪いようにいいましたが、まわりの友だちに証言を求めたりしているうちに、自分たちでどうやら納得がいくようになりました　このけんかの場合は仲間入りのためのことばも必要です。これは約束の場面で仲間いりしたいときは「いれてちょうだい」というように指導してきました。

ぼくたちいいもの作ってあげようか——相手のしていることの認識および尊重的態度の欠如によるけんか

3月11日	（月）	晴	2年保育年少	保育室
状態記録				S積木あそびをしながら，ひとりごと。 S「ぼく何か作るんだから」そこへO.M.がやってきて， O.M.「ぼくたちいいもの作ってあげようか」ちょっとからかうような調子だった。 S「いいよ，ぼくが作るから」O.M.「作ってあげるよ」 S「いいよ」 O.M.強引に今まで作っていたSの積木をこわしはじめた。 S怒ってふたりを押した。 O.M.ちょっとおどろいたように，Sから離れて肩を組んで相談をし，また黙ってO.M.でSの作っている積木をこわした。S.M.つかみ合いのけんかとなる。 先生「どうしたの」 S「だってぼくの作った積木こわすんだもん」 O.M.「ぼくたちが作ってあげるっていうのにきかないんだも」 先生「だれが先にはじめてたの」　S「ぼくだよ」 O.M.「だからぼくたちがいいものを作ってあげるっていったのにSちゃんいうことをきかないの」 先生「O.M.君たちS君にいれてもらったの」 O「S君いれて」　S「いいよ」　M「S君いれて」 S「いいよ」 M「じゃS君1，O君2，ぼく3だね」 S「きみたちにこれあげるよ」S.O.M.に積木を1個ずつあげていたが，O.M.はつまらなそうにしていた。そのうちO.M.自然に止めて他のあそびに移行した。
原因				Sが始めた積木あそびに，O.M.が入り，Sに協力せずSを支配しようとしておきたけんか。
まとめ				Sは幼稚園でひとりあそびしかできず組の中でもともだちが少なくみんなから赤ちゃん扱いにされている。O.M.はあそびに計画性があるのでSを支配したかったらしい。Sにもっと積木あそびのおもしろさを認識させ，O.M.に積木をもっと分けてあげて変化のある積木あそびをさせ，Sと共に，協力しながら積木あそびを発展させていけばよかったのではないかと反省した。
備考				O.M.の状況の認識問題でふたりはSを支配しているが，これは他人の権限の認識不足ともいえる。先生は仲間入りの技術を指導して成果はあった。（あいさつして仲間に入る）結果は長続きしなかったが上下関係の基本的問題と，Sの情報的問題の解決が必要であり，O.M.の相手の尊重ということの指導も必要ではないか。

②年長組になってけんかはいくらか少なくなったといっても、今一度は傾向が違ってくるだけで多数みられました。

特に42頁表の記録にみるように集団化する傾向がありました。

原因別の整理や指導の話し合いをしているうちに集団の話し合いをこころみてみました。その結果この場合はけんかの参加者が多く、大げんかになったのですが、案外原因は個人の衝動的な行動や情緒的面が欠けていたためと思われます。7月になって次のようなことが起こりました。

38年7月11日　晴　ゆり組　2年保育年長児　組全員　保育室内個人引出しの前

自由あそびの後片づけで5～6人一しょにクレヨン、はさみを入れようとして。

Y「先生S君がぼくのおなか押したんです」

S「だってだって」と2人で大声で話しかけて来たので一人ずつ制してきいた。

Y「ぼくが　引出しをあけようとしたらS君が下にいて、S君のおでこにぶつかったんだよ」

S「ぼくがね先に引出しをあけていたらY君が上で引出しをあけたので、頭に引出しのかどをぶっつけたんだよ」

まわりに5～6人の男女児が集ってきた。

先生「じゃ二人のお話をみんなでききましょう」

Y「あのね、ぼくが引出しをあけたらS君が下にいたので、ぼく

暴力はいけないよ――個人の小暴力に参加しておきたけんかを話合いで解決した

4月16日　（火）　雨後曇　2年保育年長　1. 玄関　2. 年少組保育室前廊下　3. 給食室前

状態記録

H　「先生けんかしてるよ」　H二階にかけ上り話す。
H　「S君がY君のおなかぶったんだって，Y君泣いてるわ」
玄関にS.Y.をにらんで立っている。Y後向きで泣いているが，声を出さない。まわりにH.M.K.O.M.が立っている。
おしゃまのH「けんかは，おやめなさい」
S　「なにお」声と同時に小柄なSは，Hのおなかをける，心配するほどのことはないようだが。
H　「いたい」と大げさに泣き出す。Sは後に先生のいることにきづかない。Hはすぐ泣きやむ。SはH.M.に向って「おいおい」と挑戦的になる。Sのまわりの K.O.M. もいっしょにH.M.をおどかすように「おいおい」といいながら遠まきにしている。
H.M.（きく組2年保育年長）の子どもで体も大きく，ひとりでも他の4人に威圧を感ずるらしい。
K　「肩を組もうぜ」S.O.M.肩を組み，廊下いっぱいに並んでH. M.をおどかす。
H.M.給食室廊下に後ずさりする。K.O.M.S.廊下の角で「やーい，やーい」とはやしたてる。H.M.も「やーい，やーい」Sひとりとび出し組みつく。両方，組んでける。
先生　「みんな止めて部屋にいらっしゃいよ」
K.O.M.S.やっと先生に気づきやめる。H.M.もいっしょに部屋に連れてくる。
組全体ときく組のH.M.を混えて話合いをする。
先生　「いまこの人たちが廊下でさわいでいたので，いってみたんだけど，どうしたの」
Y　「S君がぼくのおなかぶったんだよ。だから，ぼくは暴力は止めましょうっていったら，またぶったんだよ」
H　「私はけんか止めましょうといったら，おなかをけったんです」
H.M.　「ぼくは，Y君のぶたれたのをみてて，S君に止めろよ，といったから，かかってきたんだよ」
K　「ぼくは……」だまる。先生「O君，M君はどうしたの」
O.M.はだまっている。
全員が残るSをみた。Sは赤くなって困ったような顔をしている。
先生　「S君，おなかぶつまえに，なにをY君とけんかしたの」
S首を横にふりだまっている。Sだまったまま時間がたったので，先生「少しぶったの」
Sうなづく。
見ている子どもたちから声あり，「S君が悪いや」「暴力はいけないよ」
先生　「S君たちどうしたらいいかしら」みんなY君にあやまる。S.Y.にあやまり，S.K.O.M.たちH.M.にあやまる。
先生　「やはり，人に注意されたら，素直にききましょうね。ゆりぐみさんには怒りんぼさんが少し多いわね。注意する人も，やさしくいってあげたほうがいいわね」後，全員で暴力について話合った。

原因

Sがあまり親しくないYを通りすがりにちょっとぶったらしい。Sはときどき衝動的にともだちをぶったり，からかったりするので注意していた。そのとき理屈っぽいYと他の組のH.M.に注意されたのが，またしゃくにさわって何回も打ち，そのうちけんか好きの友達がきて集団で，H.M.をおどかした。すこし組の対抗意識もあったらしい。

まとめ

Sの衝動的な行動をなおすように指導していきたい。
暴力は止める。人に注意されたら素直にきく。注意する人はやさしくいう。
けんかの原因を知らないで，ただ好きな友達に加勢しないことなどを話合った。

◯暴力とは，どういうことか
なぐること　なかせること　けっとばすこと　ぶつこと　つねること　かむこと　約束を守らないこと　毛を引張ること　からかうこと　並んでいてとびだすこと

◯よいこととは
いじめないこと　下駄箱がわからない時教えてあげる　ぼうしかけを教える　便所のわからないとき教える　やさしくしてなかまにいれてあげる　むだづかいをしない　火事のとき教える

備考

個人の衝動的行動とグループの対抗を集団の話合いにより発展させ，解決したものだが，指導の方法として，このようなしかたもあるだろう。集団の力によっては，Sはいためつけられるようになるのではないか。先生としては，Sを救いたかったができなかった。現在もSは，けんかをすることが多い。しかし衝動的面は少なく，一応の理由があってのことだ。

先生「S君はどうしたの」
S「Y君が悪いかぼくが悪いかききにきたんだよ，ぼくが先に引をぶっつけたっていうんだよ，ぼくは何も知らなかったのにS君はぼくの引出しのかどにおでこは知らなかったんだよ」

出しをあけたらY君が後からきてずるこみしてはいったんだよ」　M「きこえない」

S「Y君がごめんなさいといわないからぼくおしたの」

G「だってY君しらなかったんでしょ、しらなかったんだからごめんなさいも何もしなかったのよ」

先生「そうね、みんなだったらどうする」

M「S君の引出しは下でY君の引出しは上なのね」

G「どっちが先にいたのかしら」　M「S君じゃない」

G「こんでてしらなかったのよ」

M「ね、こんどから一人ずつやるといいね、並んで一人ずつやればいいと思うな、そうするとけんかしないもん」

先生「そうね」　G「だから両方でごめんなさいするのよ」

両方頭を下げあやまる。

先生「こんどからこういうけんかのないようにするにはどうしたらいいかしら」

K「自分の引出しの前に並んで横からはいらないの」

G「じをかいて並びましょうとはっておけばいいと思う」

K「ひらがなでかいておくといいね」

M「ひらがなの分らないひとはどうするの」

G「じをしっているひとが教えてあげるのよ」

先生「なんてかくの」

M「おさないでだしましょう」　O「一列に並びましょう」

先生「じゃそうかきましょう」

そのあとの話し合いが終ってまだはり紙をしないうちでも、並んで引出しを利用していた。自分たちで作った約束は案外守られるだろうと心強く思いました。

これらの話し合いによる約束づくりを五項目にまとめてみます。

①自分たちでけんかをもとにして作った約束は実行の面に表われつつあるようです。

暴力はやめましょう。（ぶったりしないなど）。引出しの前は一列に並んで待ちましょう。人の悪口をいわない。帰りは寄り道をしない。人の話をよくきく。人にはやさしく話す。

②けんかの話し合いで証人になった子どもが、自信のあるなしによって解明の度合も早かったり、おそかったり。同情から証人になり口裏を合わせることがあるので、話し合いで先生の注意が必要であると思いました。

③長く話し合いをすると当事者以外の子どもはあきる傾向があるので気をつける。

④何回もくり返し約束を話してみる　身につくまで。

⑤状況の誤認はよくおきるので納得するまで話し合いをしなければいけないと痛感しました。

（これは昭和三十八年度東京都台東区研究協力園になった際の研究の一部である。）